

# あいち防災通信

「温故知新」

過去の災害を教訓に、いつ起きても  
おかしくない災害に備えましょう

第19号  
発行  
愛知県・あいち防災  
協働社会推進協議会



## 関東大震災から100年の節目の年です

今年2023年は、1923年に発生した関東大震災からちょうど100年となる節目の年です。

未曾有の大災害である関東大震災は、神奈川県および東京府（現：東京都）を中心に、隣接する茨城県・千葉県から静岡県東部までの内陸と沿岸に及ぶ広い範囲に甚大な被害をもたらしました。

### ◆過去の大規模地震との比較

	関東大震災※1	阪神・淡路大震災※1	東日本大震災※1	南海トラフ地震 (予測) ※2
発生年月日	1923年9月1日 午前11時58分	1995年1月17日 午前5時46分	2011年3月11日 午後2時46分	30年以内発生確率 70~80%
マグニチュード	7.9	7.3	9.0	9.0
直接死者数・ 行方不明者数	約105,000人 (うち焼死約9割)	約5,500人 (うち窒息・圧死約7割)	約18,000人 (うち溺死約9割)	約323,000人
全壊・全焼住家	約290,000棟	約110,000棟	約120,000棟	約2,390,000棟

(※1 出典：内閣府ホームページ, 「関東大震災100年」特設ページ, <https://www.bousai.go.jp/kantou100/index.html>)

(※2 出典：内閣府ホームページ, 「南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ、南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ(第一次報告) 追加資料、東北地方太平洋沖地震、2003年東海・東南海・南海地震想定との比較」, [https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taisaku\\_wg/pdf/20120905\\_01.pdf](https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taisaku_wg/pdf/20120905_01.pdf))

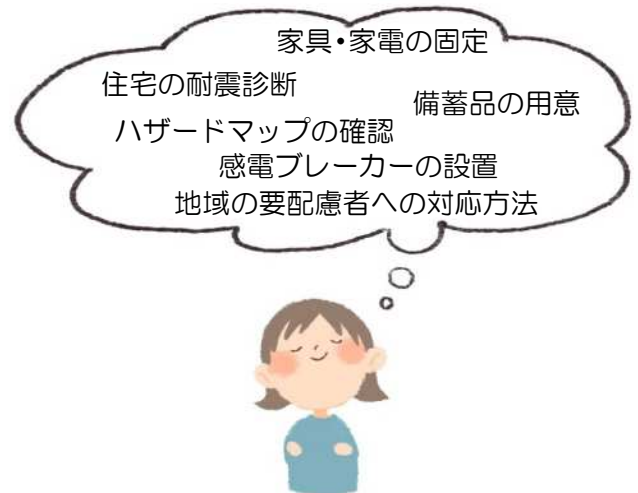
圧死が多かった阪神・淡路大震災、溺死が多かった東日本大震災と比較して、関東大震災の被害の特徴は、焼死が多かったということが挙げられます。昼食時の火の使用と重なったこともあり、倒れた家屋が次々と出火し、大規模な延焼火災に拡大し、約9万人が火災により命を落としました。

不十分な事前対策によって、多くの死者を出してしまった関東大震災は、近代日本における災害対策の出発点となり、発生日である9月1日は後に「地震防災の日」と定められました。

**過去の大地震を教訓とし、地震への備えの再点検をすることが大切です。この節目の年に、今一度、ご自身で災害への備えについて考えてみてください。特に、愛知県では南海トラフ地震の発生が危惧されており、いつ起きてもおかしくありません。**

南海トラフ地震の被害は甚大なものになると予測されていますが、しっかりと対策を講ずれば被害も大きく減少すると言われています。家具や家電器具の固定や備蓄品の用意など、まずはできることから始めてみましょう！

また、関東大震災のように地震を原因とする火災は、一般的な火災保険・共済のみでは補償されない可能性があります。補償を受けるためには次ページで詳しく説明している地震保険・共済への加入が必要です。

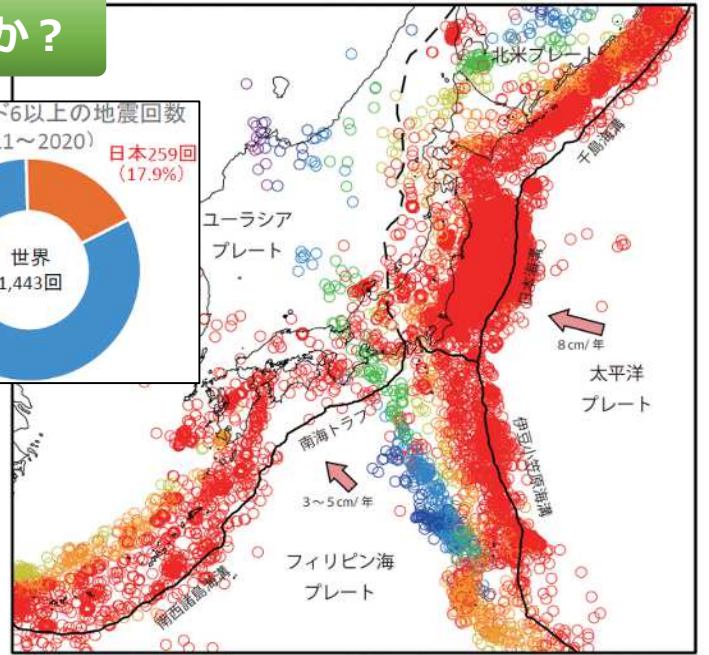
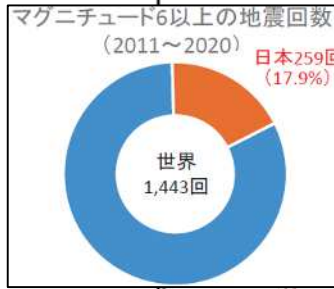


# 地震保険・共済に加入していますか？

日本列島は4枚のプレートが交わるいわば「プレートの交差点」の真上に位置しています。

世界の陸地に占める日本の国土面積はほんのわずか（約 0.25%）にもかかわらず、地球上で起こる大きな地震（マグニチュード6以上）の2割近くが、日本とその周辺に集中しています。

そのため日本は過去から繰り返し地震災害に見舞われてきました。1995年の阪神・淡路大震災以降、新潟県中越地震（2004）、東日本大震災（2011）、熊本地震（2016）、大阪府北部地震・北海道胆振東部地震（2018）、福島県沖地震（2021・2022）と、大きな被害を伴う地震が連続して発生しています。



震央 (2007年～2016年、M4以上) は、気象庁による。矢印は、ユーラシアプレートに対する太平洋プレートとフィリピン海プレートの相対的な進行方向と速さを示す。太い実線はプレート境界、破線は不明瞭なプレート境界を示す。

(出典：内閣府「防災白書」、地震調査研究推進本部「地震がわかる!」)

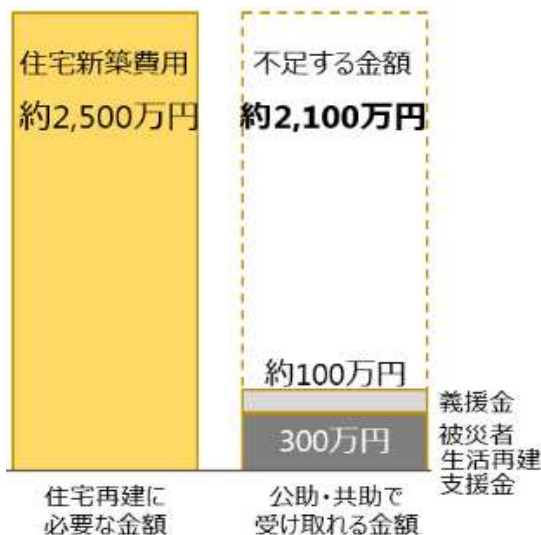
## ◆地震保険金の支払額が多かった地震5件

(地震保険金のみ、地震共済金含まず)

(2022年3月31日現在)

地震等	発生日	マグニチュード	地震保険金	
			証券件数	支払額
1. 平成23年東北地方太平洋沖地震	2011年 3月 11日	9.0	825,637件	1兆2,891億円
2. 平成28年熊本地震	2016年 4月 14日	7.3	215,208件	3,906億円
3. 福島県沖を震源とする地震	2021年 2月 13日	7.3	239,599件	2,467億円
4. 大阪府北部を震源とする地震	2018年 6月 18日	6.1	158,148件	1,241億円
5. 平成7年兵庫県南部地震	1995年 1月 17日	7.3	65,427件	783億円

(出典：日本地震再保険株式会社, "地震再保険金支払状況" <https://www.nihonjishin.co.jp/data/payment-status.html>)



地震災害への備えの一つが地震保険・共済です。災害への支援・備えには「自ら備える“自助”」、「周りの人々と助け合う“共助”」および「公的機関による“公助”」がありますが、残念ながら公助には限りがあることも事実です。

内閣府によると、東日本大震災で全壊被害に遭った住宅の新築費用は平均約 2,500 万円、それに対し公的支援として受け取れたのは、善意による義援金をあわせても約 400 万円にとどまりました。

**ぜひこの機会に、現在お住いの住宅の火災保険・共済は地震災害に遭われた際にも補償を受けられる内容となっているか、今一度ご確認ください。**

✓ **地震保険**は、政府と民間の損害保険会社が共同で運営する公共性の高い保険であり、地震保険の内容（補償内容、保険料など）はどこの損害保険会社でも同じです。

**詳しくは損害保険会社または代理店へお問合せください**

✓ **地震共済**は、運営する共済団体の組合員のみが加入でき、地震共済の内容（保障内容、掛金など）は共済団体ごとに異なります。

**詳しくは各共済団体へお問合せください**

これだけではなく、

- 家財
- 引っ越し費用

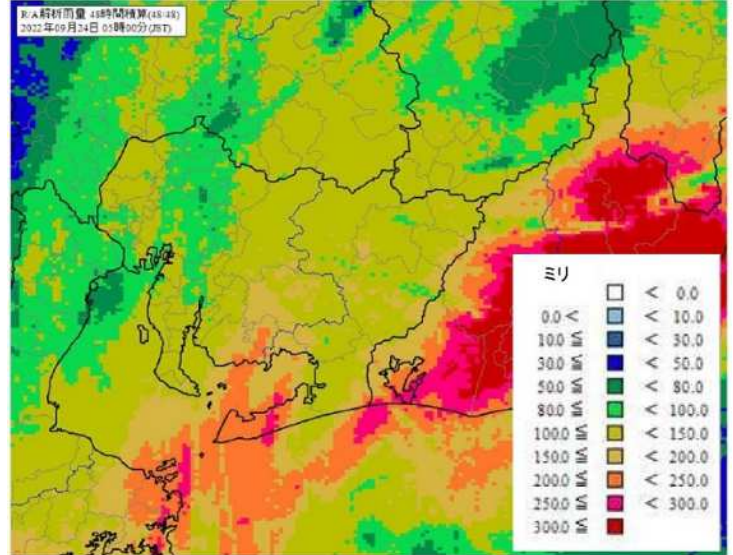
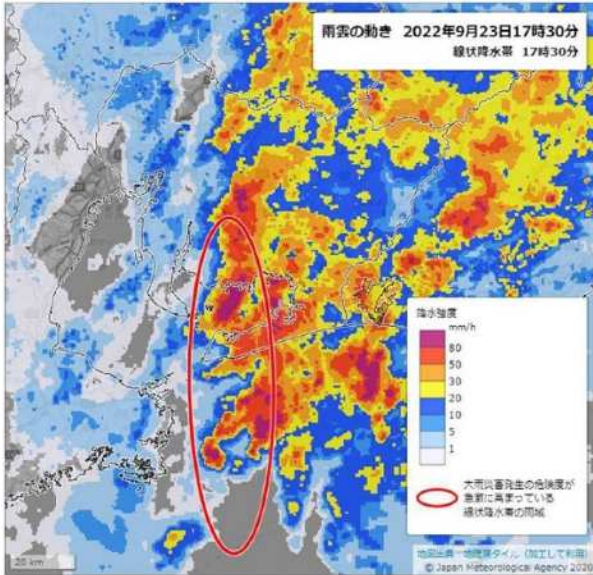
など、住宅・生活の再建には他にもお金がかかります。

※数字は東日本大震災の一例です

(出典：内閣府ホームページ, 「全壊」被害からの生活再建にはこれだけお金がかかる”, <https://www.bousai.go.jp/kyoiku/hokenkyousai/hiyou.html>)

# 令和4年台風第15号による愛知県への被害

近年、大型の台風の発生が頻発しています。2022年9月23日から24日にかけて東海地方に接近した台風第15号は、矢作川水系広田川で堤防が決壊するなど、愛知県に多大なる被害を及ぼしました。組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300km程度、幅20～50km程度の強い降水をともなう「線状降水帯」が発生し、記録的な大雨となりました。特に東三河南部では猛烈な雨が降り、降り始め（22日5時）からの総雨量が多い所で300ミリを超える大雨となった地域もあり、田原市では、観測史上、9月における1日の最大降水量を記録しました。



解析雨量積算図（9月22日05時～24日05時）

（出典：名古屋気象台ホームページ，”令和4年台風第15号による大雨に関する愛知県気象速報，” <https://www.nihonjishin.co.jp/data/payment-status.html>）

## ◆ 顕著な大雨に関する気象情報について

「線状降水帯」が発生し、非常に激しい雨が同じ場所に降り続いて土砂災害や洪水の危険性が急激に高まったときに発表される「顕著な大雨に関する気象情報」が、令和4年台風第15号により、愛知県で初めて発表されました。

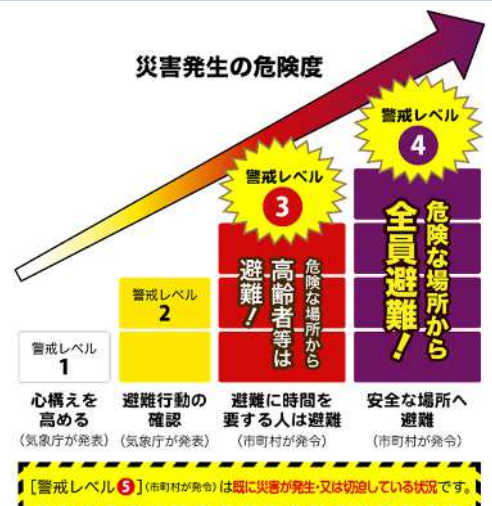
### ＜顕著な大雨に関する気象情報の発表基準＞

- ① 解析雨量（5kmメッシュ）において前3時間積算降水量が100mm以上の分布域の面積が500km<sup>2</sup>以上
  - ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
  - ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
  - ④ ①の領域内の土砂キキクル（大雨警報（土砂災害）の危険度分布）において土砂災害警戒情報の基準を実況で超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクル（洪水警報の危険度分布）において警戒基準を大きく超過した基準を実況で超過
- ※ 上記①～④すべての条件を満たした場合に発表されます。  
 ※ 情報を発表してから3時間以上経過後に発表基準を満たしている場合は再発表するほか、3時間未満であっても対象区域に変化があった場合は再発表されます。

「顕著な大雨に関する気象情報」は、警戒レベル相当情報を補足する情報であり、警戒レベル4相当以上の状況で発表します。

川の近くなど、危険な場所にいる方は、市町村から発令されている避難情報に従い、直ちに適切な避難行動をとってください。周りの状況を確認し、避難場所への避難がかえって危険と判断される場合は、少しでも、崖や沢から離れた建物や、浸水しにくい高い場所へ移動するなど、身の安全を確保してください。

ただし、「顕著な大雨に関する気象情報」が発表されていなくとも、広範囲で激しい雨が長時間継続するような場合には、甚大な災害が発生する場合があります。**顕著な大雨に関する気象情報を待つことなく、自ら安全な場所へ避難する判断が重要です。**



出典：政府広報オンライン，”避難情報がよりわかりやすく！令和3年5月から「警戒レベル4までに必ず避難！」”，  
<https://nettv.gov-online.go.jp/prg/prg22848.html?nt=1>

## ゼロメートル地帯における広域防災活動拠点を整備しています

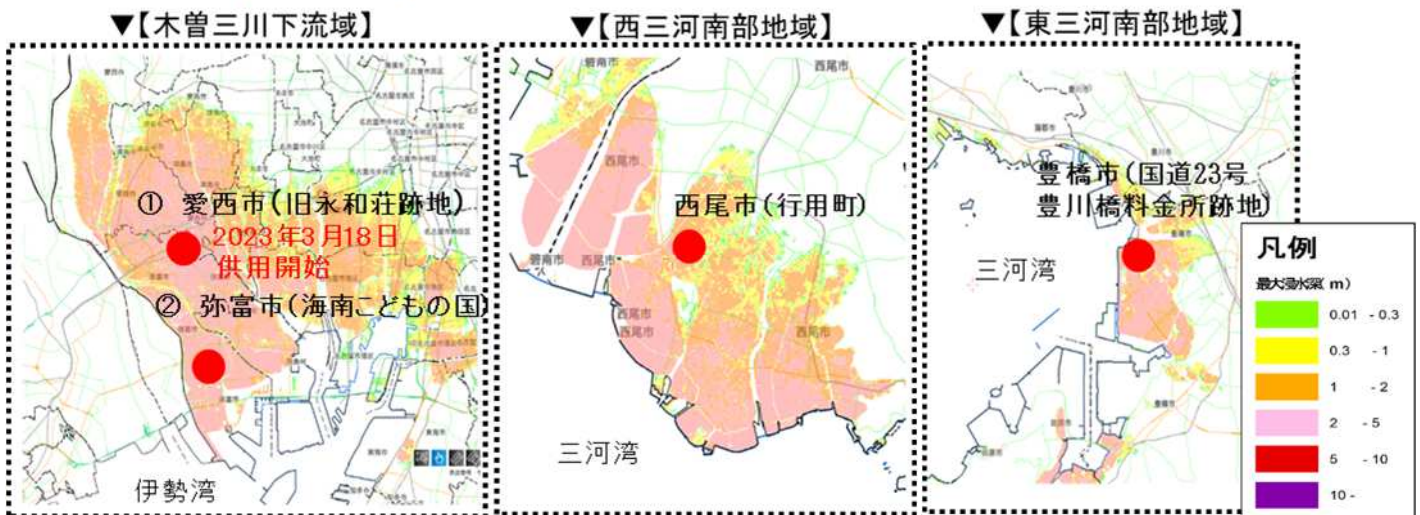
愛知県は、**国内最大**のゼロメートル地帯を有することから、南海トラフ地震等の発生時に、堤防沈下や津波による浸水被害から県民の生命を守るため、浸水区域に残された人々をボートやヘリコプターにより迅速に救助し、浸水区域外へ救出する「広域防災活動拠点」の整備を県内4か所で進めています。

### <拠点運用イメージ>

- 避難ビルに避難した人々や自宅の2階に取り残された人々を、ボートやヘリコプターにより迅速に救助
- 効率的な救助活動を実施するため、救助者を広域防災活動拠点へ救出
- 救出された救助者を大型ヘリコプターにより、浸水地域外(内陸地)へ搬送



### <広域防災活動拠点の整備状況>



## 愛知県 1 か所目となる広域防災活動拠点が完成しました

県内 4 か所で整備を進めている「広域防災活動拠点」のうち、1 か所目の木曾三川下流域 I・愛西市の「防災拠点」が完成し、2023年3月18日（土）から供用が開始されました。

また、供用開始に当たり、同日、開所式及び運用訓練が開催されました。

### <拠点完成写真>



施設航空写真



盛土高約3m

### <開所式>



テープカット



施設内覧会(防災倉庫内)

### <運用訓練>



訓練の様子



ヘリ救助訓練

## あいち防災フェスタを開催しました

防災協働社会の連携を推進するとともに、家具等の転倒防止対策や防災ボランティア活動の理解促進を図ることを目的として、「あいち防災フェスタ」を、あいち地震防災の日（11月第2日曜日）である2022年11月13日（日）に、大府市・東浦町に跨るあいち健康の森公園で開催しました。

当日は、SKE48の石黒友月さん（チームS）、鈴木愛菜さん（チームKⅡ）と一緒に防災O×クイズ大会や、家具固定の相談窓口など防災に関する様々なブース出展、防災関係車両の展示などを実施しました。

また、防災体験スタンプラリーでは、会場内のスタンプを集めた方に、実際に被災地支援にも使用されているキッチンカーで作るできたてあったか牛丼などをプレゼントしました。

天候には恵まれませんでした、**お子様からご年輩の方まで約1,400名の方にご来場いただきました。**



## 令和4年度愛知県防災貢献団体表彰 受賞団体の紹介

「あいち防災フェスタ」内で、令和4年度愛知県防災貢献団体表彰を実施しました。

地域社会に活動基盤を持つ自主防災組織や企業などの中から、優れた工夫・アイデアを防災活動に取り入れるなど防災対策の充実や防災意識の高揚に積極的に取り組んでいる団体を表彰することで、地域防災力の向上を図り防災協働社会の実現を目指しています。

令和4年度に受賞した6団体を紹介させていただきます。



①南小学校区コミュニティ推進協議会自主防災部（津島市）



②一色防災ネットワーク（西尾市）



③共和東自主防災会（大府市）



④日進ニュータウン地区自主防災会（日進市）



⑤捜索救助犬HDSK9（豊橋市）



⑥社会福祉法人せんねん村（西尾市）

## 防災人材交流シンポジウム「つなぎ舎(や)」を開催しました

南海トラフ地震等の大規模災害に備えるためには、**県民一人ひとりの防災力向上が必要不可欠です。**

東日本大震災の被災者と将来の被災者である愛知をつなぎ、地域・世代・組織を超えたあらゆる主体が、過去の災害教訓を継承し、我が事として捉え、防災・減災を実践につなげていくことを期待し、防災人材交流シンポジウム「つなぎ舎」を、2022年11月13日（日）にあいち健康の森公園あいち健康プラザにて開催しました。

当日の第一部では、東日本大震災からの10年間を描いた記録映画を通じて、被災地の現実とそこで暮らす人々の想いを、参加者と共有しました。

第二部では、東北の3.11メモリアルネットワークに来県いただき、東日本大震災の教訓と知見について、「講演」や「講話」では伝えきれない想いを、3つの形（岩手：甚句、宮城：オンライン語り部、福島：朗読劇）で、愛知の私たちに届けてくださりました。

第三部では、メインホールで「パネルディスカッション」、サブホールで「グループワーク」を開催し、第1部・第2部での東北からの学びを受けて、参加者同士の意見交換を行い、話し合いの成果を発表しました。

当日は220名の方に御参加いただきました。活動報告の詳細は、以下のURLにも掲載しています。

また、当日の様子（第2部・3部）は、あいち・なごや強靱化共創センターWebページからもご覧いただけます。

活動報告 URL: <http://gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/seminar&event.html>

第2部 URL: <https://www.youtube.com/watch?v=YcNZ1ZTrDhU>

第3部 URL: <https://www.youtube.com/watch?v=fWsj87sMmB0>



～主催・共催団体による展示会～



～パネルディスカッション～



～グループワーク～

## 防災・減災カレッジを開催しました

南海トラフ地震等の大規模災害に備えるため、2012年度から防災人材育成研修「防災・減災カレッジ」を開催しています。2022年度もコロナ禍ではありましたが、基本的な感染症対策を講じた上で、県民の皆様への「防災人材育成」及び「防災普及啓発」を行うことができました。

2022年度は、近年の災害発生状況を踏まえ、風水害（集中豪雨、線状降水帯、土砂災害等）による講義内容を拡充させた他、コロナ禍で培いましたオンライン講座も併用しての開催で、全31日間（18講座）を実施し、約2,000名の方に受講いただきました。

2023年度も運営の改善、講義内容の充実を図り、防災人材育成を引き続き推進していく予定です。**皆様の積極的な御参加をお待ちしています。**2023年度の開催案内は、5月頃に掲載するWebページ（<http://gensai.nagoya-u.ac.jp/kyoso/college.html>）を御確認ください。

※主催：あいち協働社会推進協議会、あいち・なごや強靱化共創センター



～座学～



～ワークショップ～



～救命救急～



～防災・減災ツアー～

## 防災教育センターで開催する体験講習会の受講団体を募集しています

愛知県では、南海トラフ地震等の大規模地震に備え、地域における家具固定の取組や自主防災活動を促進するため、愛知県防災教育センター（県消防学校内）において、以下の3つの体験講習会を開催しています。

参加費は無料です！

### ・家具固定器具取付・ガラス飛散防止フィルム貼り

家具固定の実物見本展示や家具固定器具関連グッズ等を御覧いただくとともに、実習コーナーにおいて、家具固定のための下地探しや家具固定器具の取付の実習を行います。また、ガラス飛散防止フィルムの貼り方の実習も行います。

### ・避難所運営ゲーム（HUG）

避難所で起こる様々な出来事を疑似体験し、避難所の運営について、グループで考えるためのゲームです。

※「HUG」は、H（Hinanzyo 避難所）、U（Unei 運営）、G（Game ゲーム）の頭文字を取った名称。

### ・災害図上訓練（DIG）

地図上に与えられた被害状況や推測される状況を書き込み、対処方法をグループで討論しながら導き出す訓練です。

※「DIG」は、D(Disaster 災害)、I (Imagination 想像力)、G(Game ゲーム)の頭文字を取った名称。

申請方法等、詳しい手続きについては、ホームページを御確認ください。

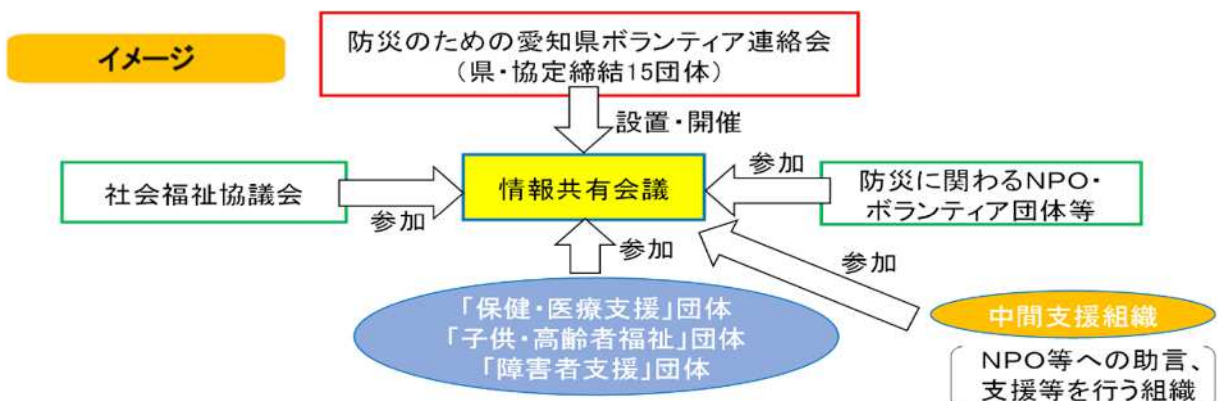
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/bosai/bousaikyouikusenta30.html>



## 愛知県災害支援のためのボランティア等情報共有会議を開催しました

災害時に活動する様々な団体が平常時から集い「顔の見える関係」を構築することを目指して、地域の災害対応について情報共有したい方、NPO・ボランティア団体間の連携を深めたい方などを対象に、情報共有会議をオンラインにて開催しました。

- ① 2022年3月16日（水） テーマ「情報共有会議について」 85 団体参加
- ② 2022年9月22日（木） テーマ「災害時の連携に関する理解促進」 57 団体参加
- ③ 2023年3月14日（火） テーマ「南海トラフ地震の被害想定～愛知県はどうなる」 77 団体参加





## 座談会「女性の視点をふまえた防災啓発」を開催しました

2023年2月9日、座談会「女性の視点をふまえた防災啓発」を開催しました。和気あいあいとした雰囲気の中で、防災の各方面で活躍されている女性の方々をお招きして、現在の愛知県が行っている防災啓発に関する率直な御意見や、今後の活動についての御助言をいただき、たいへん充実した座談会となりました。今後も、様々な立場の方に寄り添った、防災啓発活動を行ってまいります。



## 地震体験車「なまず号」による啓発活動を実施しています

県民の皆様方に、地震に対する正しい認識と備えをしていただくため、地震の揺れを体験し、防災の取組の必要性を理解いただくことを目的とする地震体験車「なまず号」の乗車体験を、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため緊急事態措置及びまん延防止等重点措置の実施期間は実施を中止していましたが、2022年度から本格的に再開しています。

愛知県では、県内のハウジングセンターや、ショッピングモール、アウトドアイベントなどで乗車体験を開催しました。

次は皆さんがお住まいの街になまず号がやってくるかも！



## 愛知県家具固定相談窓口を設置し、家具固定の相談を受付中！

地震により、家具などが倒れてくると、ケガをしてしまったり、自宅から避難することができなくなるかもしれません。家具の転倒防止は、誰でもできる効果の高い対策です！

愛知県では、防災危機管理課内に家具固定に関する相談窓口を設置しています。家具固定について疑問点などがございましたら、以下の相談窓口へお電話、FAX又はEメールでお問合せください。

### <愛知県家具固定相談窓口>

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
愛知県防災安全局防災部防災危機管理課啓発グループ（本庁舎2階北側）

平日 午前9時から午後5時15分まで

電話：052-954-6700（ダイヤルイン）

FAX：052-954-6911

Eメール：bosai@pref.aichi.lg.jp

主な相談内容

- ・自主防災会等を対象とした講習会等への家具固定推進員の派遣相談
- ・家具固定の方法や器具の紹介
- ・家具固定器具取付け支援制度の紹介 など



## 愛知県家具固定推進員を派遣しています！

家具固定推進員（家具等転倒防止対策を推進するボランティア）を地域の講習会やイベント、防災訓練等に派遣し、家具固定器具の取付実演や啓発活動を実施しています。家具固定推進員の詳しい内容や派遣申請については、「愛知県家具固定相談窓口」までお問合せいただくか、ホームページを御確認ください。

<https://www.pref.aichi.jp/press-release/kagukoteisuishininhaken.html>



あいち防災通信に関する問い合わせは、  
愛知県防災安全局防災部防災危機管理課啓発グループまで 電話 052-954-6190